

実はすごいダンスの力！ The real power of DANCE！

岡崎 恵美

Okazaki Emi

Akwaaba Kids (アクワーバキッズ) は、日本に住むアフリカにルーツを持つ子どもたちのアフロビーツのダンスグループです。活動を始めてから3年になります。日本で子育てをする中、アフリカにルーツを持つ娘と息子に、もっとアフリカの文化に触れる機会を作りたい！もっと多様性のある環境で育ってほしい！皆でダンスすることのすばらしさを感じてほしい！など、さまざまな思いから活動を始めることになりました。

育った環境から影響を受けて

私は日本で生まれ、6歳の時に家族と英国に渡り、アフリカ系、カリブ系の大きなコミュニティがある南ロンドンに住んでいました。私の学校には、ナイジェリア人やジャマイカ人をはじめ、インド人、トルコ人、ベトナム人など、さまざまな民族、宗教、異なるバックグラウンドを持つ人たちがいて、そこでさまざまな考え方や生き方に影響を受けました。

また父が人類学者だったため、フィールドワークの関係でケニアとスーダンで暮らしていたこともありました。特にスーダンでは貧困と内戦のため、生活はとても厳しいものでしたが、現地の人たちの生きるパワーやコミュニティの絆の深さ、そしてそれを支えるダンスの力に動かされました。

大学時代は米国南部のニューオーリンズで過ごし、学生コミュニティが人種や民族によって分断されていることを知り、疑問を抱きました。そこで、多文化ソロリティー (女子学生活動グループ) を友人たちと立ち上げ、異文化理解や多文化共存を促進し、偏見や人種差別の問題に取り組む活動を始めました。その運営委員として、ダンスのイベントを企画し大学の学生コミュニティを巻き込んだり、地域のボランティア団体と連携し、貧困地域に住む黒人コミュニティの子ども

たちの教育支援をしたりしました。これらの経験から、社会的不平等や構造的な人種差別についてもっと深く考え行動しなくては、と感じるようになりました。

そして、英国の大学院で学んだ後、ブラジル、ベトナム、パラグアイでボランティア活動をしたり、ガーナで国際協力機構 (JICA) のプロジェクトに関わったりしました。

日本での子育てと アフリカンキッズクラブとの出会い

1人目の子どもが生まれた当時、幼なじみやママ友のいない日本での子育てはとても孤独なものでした。2人目の子どもが生まれた翌年、知り合いに勧められアフリカンキッズクラブ (AKC) のイベントに参加することになりました。自分と同じアフリカにルーツを持つ子どもたちのお母さんたちと出会い、いろいろなことをオープンに話したり、悩みごとをお互い相談したりし、とても元気づけられ前向きになりました。

アフリカにルーツを持つ子どもたちやその保護者が自分たちの経験を共有、共感できる場、お互いに支えあえるコミュニティの重要性を感じました。そして、子どもたちにとって家と学校という狭い世界だけでなく、もう一つの居場所作りの大切さを実感しました。

ダンスの力

子どもたちが楽しく参加でき、自分のアフリカンルーツに触れたり、新しい仲間を作ったりできるような場がもっとあったら、と考えた時、「ダンス」が思い浮かびました。ダンスは小さい頃から大好きで、父がいつも世界各地の音楽を大音量でかけていたせいか、いろいろな音楽やダンスに興味を持つようになり

おかざき えみ：コートジボワール・ミックスの子ども2人 (7歳と6歳) を持つシングルマザー。アフリカンキッズクラブのダンスクラス講師。Akwaaba Kids Japan を主宰。長女カヤも振り付けと一緒に考えたりして活動している。現在はコロナ禍でオンライン (Zoom) クラスを開催中。

Akwaaba Kids Japan : www.facebook.com/AkwaabaKidsJapan カヤのインスタグラム : @kaya_vibes



ました。ロンドンで育った地域は、音楽やダンスであふれていて、その面白さと魅力に引き込まれました。そして、大学院のときには、ガーナ系ダンスグループに入り、結婚式などでダンスを披露したり、ロンドンの小学校をまわり、音楽、ダンスや劇などでアフリカの文化を伝えたりする活動をしました。

ダンスは、子どもも大人も、人種やバックグラウンド等関係なく、人を元気づけ、文化や言語を超えて世界の人たちを結びつけるパワーを持っています。子どもたちがダンスに触れる場をもっと作りたいたいという思いで、ダンスクラスを始めることに決めました。

Afrobeats (アフロビーツ) の可能性

2012年に JICA の仕事でガーナに住んでいた時、一番の楽しみが Afrobeats のダンスでした。Afrobeats (1960-1970年代の Afrobeat とは異なる) は、主にナイジェリアやガーナのポップミュージックのことですが、最近では他のアフリカの国々のポップミュージックも含まれるようになりました。そして 'New Africa' と言われることもある Afrobeats は、アフリカだけでなく世界中に住むアフリカにルーツを持つ若者たちに自信を与え、エンパワーし、一体感を持つムーブメントになっています。

Afrobeats ダンスは、他のダンスと比べて、体の動かし方や顔の表情などの表現スタイルがとても豊かです。型にはまってみんなと同じようにステップを踏むのではなく、自分の個性や「癖」を出しながら、楽しみながら自分らしくダンスするのが Afrobeats の基本です。Afrobeats は、日本に住むアフリカにルーツを持つ子どもたちにとって、自由に表現できる場を作ったり、アフリカとのつながりを感じさせてくれたり、世界観を広げていく力を持っていると信じています。

Akwaaba Kids への思い

2018年春に、AKC のダンスクラスの活動が始まりました。しかし、仕事や子育て、家事で時間的にも体



力的にも余裕のない中、責任をもって本当にできるのか？参加者は来てくれるのか？など、不安な気持ちで一杯でした。そんな時、一番の支えになったのが Afrobeats が大好きな娘のカヤでした。カヤと同じようなバックグラウンドを持つ子どもたちと一緒に思いっきり踊って、好きなだけ楽しめる場を作りたい。子どもたちが自由に自己表現でき、お互いの友情を深め、励ましあえる場にしたい。そして、自分のルーツにもっと興味を持ったり、新しいことを発見したり、アフリカの国々の文化をもっと身近に感じてほしい。このようないろいろな思い、AKC の仲間や家族の協力、そして子どもたちの笑顔が活動の原動力になっています。

現在、ダンスクラスには、アフリカの国々など20カ国以上にルーツを持つ子どもたちが集まっています。ダンスだけでなく、お互いのルーツやアフリカの国々について話し合い、子どもたち同士が学びあえるような場になっています。そして、クラスを日本語と英語で行うことにより、子どもたちの世界観や視野を広げることにつなげ、日本語が得意ではない子どもや保護者も気楽に参加できるようにしています。

最後に、グループの名前について。'Akwaaba' は、ガーナやコートジボワールの一部で話されているアカン語で「ようこそ」という意味です。ガーナに住んでいた時や、コートジボワールの家族に会いに行った時に、'Akwaaba!' とよく声をかけられ、笑顔で歓迎してくれる人々の優しさが印象的でした。相手に対する思いやりや温かさを代表する 'Akwaaba' は、ガーナやコートジボワールに限らず、アフリカン・ホスピタリティのシンボルの一つだと感じています。アフリカンルーツの子どもたちをありのままの姿で温かく受け入れられる社会になってほしいという思いを込めて、グループ名を Akwaaba Kids にしました。

偏見や差別問題に直面する中、将来を担う子どもたちが自分の夢に向かって、それぞれの力をフルに発揮できるよう、今後も一緒に考え続けていきたいと思えます。